

復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業

「平成29年度主権者教育推進コーディネーター養成研修会」実施報告

平成29年5月8日（月）、各校の主権者教育推進コーディネーター91名が参加して、福島県教育センターで「平成29年度主権者教育推進コーディネーター養成研修会」を開催した。

本研修会の目的は、主権者教育年間指導計画作成の確認及び主権者教育における4つの力の育成のために、地域課題探究活動を位置付けた実践的な授業の実施についての指示伝達である。この目的のもと、主権者教育を学校全体で進める上での課題等について、各校で作成した年間指導計画を持ち寄りながら講義と実践発表及び協議を行った。

（講義の様子）

研修会の冒頭で、昨年7月に行われた参議院議員選挙における18歳と19歳の投票率を踏まえ、高等学校における主権者教育の意義について、参加者は共有化を図った。

年間指導計画作成に関する講義では、学習指導要領に基づいて、校長を中心に学校としてのねらいを明確にし、系統的、計画的な指導計画を立てることについて説明した。その中で、昨年度作成した全体計画の見直しについても触れ、その趣旨を踏まえながら、総合的な学習の時間や特別活動、公民科各科目の年間指導計画、学校行事年間計画表などに基づき、学年ごとの指導計画を立て3年間を見通した主権者教育カリキュラム



マネジメントを立案していくことが、主権者教育推進コーディネーターの役目であることを確認した。

地域課題探究活動についての講義では、より実践的な主権者教育に取り組んでいるふたば未来学園高校の鈴木知洋教諭が実践発表を行った。鈴木教諭は、前任校で取り組んだ模擬選挙をとおして、主権者教育に学校全体で取り組むためには、管理職をはじめ全職員の理解と協力が重要であることについて、自らの実践を踏まえながら述べた。

その後の講義では、各校で主権者教育の視点から地域課題探究活動に取り組み、その成果や解決方法について、県内の高校生が5地区に分かれて協議する「地域貢献サミット」についての概略を説明した。

（グループ活動に取り組む参加者）

協議では、「主権者教育を学校全体でどう進めるか」という課題のもと、参加者個人で課題に取り組み、ペアまたは小グループに分かれて、学校全体で取り組む計画的で系統的な主権者教育の実践方法について、有意義な意見の交換がなされた。その中で参加者から、地域課題探究活動を主権者教育に関連づけて取り組んでいくことについて、自校での活動を踏まえた積極的な意見が出された。



本研修会での取組を生かし、地域課題探究活動を取り入れた年間指導計画を作成し、その計画に基づいて、各校で実践的な主権者教育が展開されることを期待している。また、参加者が本研修会で得た情報や、教員同士のネットワークを積極的に活用しながら、より実践的な主権者教育を展開することにより、生徒が現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察する力や、現実社会の諸課題を見いだし、協働的に追究し解決する力などを身に付けてほしい。